**2023年度における「SDGsの授業づくりのヒントと支援教材」プロジェクト**

**第1回：研修会議事要旨**

日時：2023年5月27日15:00～17:00

主催：日本ESD学会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）

参加者：主として小中高校の先生方、大学でリベラルアーツを教える先生方等34名

方式：Zoomによるオンライン方式

プログラム：別添

資料：

・研修会の紹介資料　（鈴木克徳）

・教材の説明　（斎尾恭子）

・SDGs講座の構造化学習ユニットによる展開　（阪井和男）

・SDGs教材利活用プロジェクト　（矢野淳一）

議事概要

**開会**

・見上一幸日本ESD学会会長から開会挨拶及びこれまでのプロジェクトの経過に関する報告が行われた。その後事務局を務める鈴木克徳同学会副会長から本日の進め方等について説明が行われた。

**プロジェクトの成果物と教材の説明**

・明治大学斎尾恭子研究員から資料（教材の説明）に基づき、プロジェクトの成果物の説明が行われた。

・明治大学阪井和男教授から資料（SDGs講座の構造化学習ユニットによる展開）に基づき説明が行われた。

・また、直接教材開発を担当した東京都市大学佐藤真久教授、大分大学河野晋也准教授から教材の狙い等について補足説明が行われた。佐藤教授からは、対話型と言う彼の教材の特徴や3つの教材の組み合わせの可能性等について、河野准教授からは小学校での授業の経験に基づいて作成したものであり、適宜「良いとこどり」をしてもらえればとのコメントが行われた。

**現場教員の活用経験**

・静岡県伊豆の国市立大仁北小学校の矢野淳一教諭から、前任校である伊豆市立修善寺東小学校での2年生の授業での活用経験についてのプレゼンテーションが行われた。

・単元は、横断的な学びをするため、生活科、国語科等の授業を組み合わせて作成した。小学校2年が対象なので、河野先生の教材をリアレンジして活用した。

**休憩とPVビデオ（15分：**[**https://youtu.be/6\_KXfF40uSY**](https://youtu.be/6_KXfF40uSY)**）放映**

**質疑及び自由討議**

・質疑に先立ち、本プロジェクトの研究会について、スライドに基づき趣旨、目的、実施方法等について事務局鈴木から説明が行われた。

・主な質疑、コメントは以下の通り、

・SDGsやESDなどについてはより若い時期から教えることが重要。

・高校でSDGsを教えることになったので、本教材を使うことにより、どう語りかけたら良いかがわかって大変助かった。また、生徒の反応を見て返すには、深い知識があることが必要。本教材は、そのような知識を得るための良い情報源になっている。バージョン２が出来ることを期待している。

･SDGsなどについて、まずどこにアクセスすれば良いかなかなかわからない。このような教材があることを初めて知り、今後活用して学校現場の先生を支援したり、ユネスコ協会の研修に使いたい。この支援教材の分析とはどの様な内容か？既存の3つの教材の分析を深めるのか？新たな授業の分析を行うのか？

→分析は今ある教材についてさらに深めることも出来るし、新たな教材について行うことも可能である。

→信頼に足るコンテンツを、研究会を通じて集積していくことも可能であろう。

・このような活動が全体の底上げになる。矢野先生の様な実践の蓄積が重要。質問が3つある。

1. 分析の目的と活用方法は？→自分の授業実践の特性の可視化と振り返りをする。また、将来的には学生の反応を見ることにも使えるだろう。
2. クリエイティブ･コモンズは全く自由に使って良いのか？→表記の仕方が定まっている。誰の資料か明記すれば使用可能。
3. 動画の場合、湯本先生の示した動画はそのまま使って良いか？→湯本先生の動画は引用だけで良いもののみ。今後の動画については確認が必要。

・北陸では北陸の授業実践をeラーニング教材化している。北陸の特徴は地域に着目した地域教材作りが多く、世界との繋がりなどが弱いので、今後改善したい。

→地域に着目した活動は日本では進んでいるが、世界との連動は弱い面があると考えられる。気候変動や、特に最近世界的に注目されている生物多様性などについて、研究者はもっと教育の世界に伝えていくことが重要。

→教育の世界は世界の動向に対して鈍いと感じている。SDGsについても学生たちの危機感の欠如が問題。それらを意識の高い人たちが補っていく必要がある。

閉会挨拶

・本プロジェクトの成果をより広く知ってもらうために、年度内にさらに数回研修会を開催したい。また、実践経験の共有等を行うこと等を目的として、オープンエンドな研究会を２ヶ月１回程度の頻度で開催する予定である。時間がある人は誰でも自由に参加出来るので、気軽に参加していただきたい。

・本研修の参加者の方々の連絡先を後日メールで事務局鈴木までお知らせいただくようお願いする。

（了）